

膵臓がん早期発見推進ワーキンググループ

(令和元年度)

膵臓がん早期発見推進ワーキンググループ報告書

広島県地域保健対策協議会 膵臓がん早期発見推進ワーキンググループ

WG長 古川 善也

I. ワーキンググループ設置の経緯について

膵臓がんは早期での自覚症状がなく、簡便な検査法も確立していないことから、早期発見が難しい。このため、5年生存率が10%を下回るステージⅣの発見割合は43.0%であるのに対し、5年生存率が80%とされる大きさ1cm以下の早期がんが含まれるステージ0とⅠを合わせた発見割合は、11.0%という低い水準が続いている。しかも、部位別がん罹患数・死亡患者数のいずれも男女ともに増加傾向にある。

当ワーキンググループは難治性がんのうち死亡者数の多い膵臓がんの早期発見のための医療連携体制の構築を目的として、令和元年度に設置された。

II. 開催状況について

委員を選定し、おおよその方向性やWGへの参加について了承を得た。

現状と課題の共有や今後の方向性の検討を目的として、令和2年3月に第1回の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催を延期した。

今後は、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ開催時期・方法を調整したうえで、早期発見の医療連携体制を構築するため、各病院がそれぞれの特性に応じて取り組むべき対策や全県で共通して取り組むべき対策等の具体的な協議を行っていく必要がある。

広島県地域保健対策協議会 膵臓がん早期発見推進ワーキンググループ

WG長	古川 善也	広島赤十字・原爆病院
委員	齋 宏	市立三次中央病院
	植木 亨	福山市民病院
	岡崎 彰仁	広島赤十字・原爆病院
	小川 恒由	福山市民病院
	國田 哲子	広島県医師会
	久保 康行	広島県健康福祉局
	佐々木民人	県立広島病院
	芹川 正浩	広島大学病院消化器・代謝内科
	豊田 義政	広島県健康福祉局がん対策課
	花田 敬士	JA尾道総合病院
	平尾 謙	広島市立広島市民病院
	藤本 佳史	JA広島総合病院
	南 智之	東広島医療センター
	三宅 規之	広島県医師会
	山口 厚	呉医療センター・中国がんセンター
	山田 博康	広島県医師会
	吉原 正治	広島大学保健管理センター